

図書館だより



目次

- 「ネパールからの便り」……………2
- 図書委員が薦めるこの三冊・私が薦めるこの三冊 ……3
- 図書の一部紹介・総合図書館ホームページ開設!! … 4
- 図書館の使い方シリーズ（1）……………5
- 図書館ガイドマップ ……………6～7
- 総合図書館インフォメーション……………8



「ネパールからの便り」

総合図書館委員(旧)

リングホーファー・マンフレッド

ネパールの文盲率は、約70%であるということを知っている人は何人いるだろうか。しかし、その状況を改善しようと努力を尽くしている研究所がある。数年前から大阪産業大学はアジア諸国の大学と提携を結んできた。その1校であるトリバン大学(ネパール)に属している「教育改革及び開発研究センター(Research Center for Educational Innovation and Development, 以下、CERIDで省略)」を次に紹介する。両大学の提携で、私は3月にネパールの教育及びブータン難民とチベット難民の教育制度の比較研究のため、4週間CERIDに席をおくこととなり、それを機会に下記の報告を河井徳治総合図書館長に依頼された。

CERIDという研究センターは、国立教育委員会によって1976年に創立された。1979年にトリバン大学の一部となったがネパールの文部省にあたる「Ministry of Education and Culture」との密接な研究協力関係が継続されてきた。

CERIDの研究活動の目標は次の通りである。

- 1) 学校と大学レベルの教育に関する研究およびモデル校の導入
 - 2) 教育と開発をリンクする研究プロジェクトの実施
 - 3) セミナー、ワークショップ、研究報告等の発表によって、教育上重要な情報交換や経験の普及
- センターの図書は五つに分類されている

ア 一般図書(教育学・心理学・女性学・社会学関係の書物)

イ ネパールの教育(文部省をはじめ全国の教育関係組織のあらゆる報告書、書類等)

ウ 幼児発達教育(参考文献、ニュースレター、トレーニングセット等の資料)

エ 成人教育(ビデオ・ビデオ関係の内外資料)

オ 国際教育企画研究所(ユネスコ系列研究所全出版物)

現在は、上記の書物、資料等のデータベースを作っているところである。

その他に、「CERID CD-ROM」という世界の教育文献の最高レベルのデータベースも将来利用できる。そしてユネスコの出版物等が入っている「ユネスコデータベース」も揃う予定である。

さらに、今年中にインターネットのサービス及びホームページの設置も計画されている。しかし、本を買うことやコピーすることよりも、本を書き写す習慣がまだ根強く残っているこの国では、インターネット時代へのジャンプにどれほど研究者・教師等の教育関係者がついていけるのだろうか。

CERIDのもうひとつの仕事は学校等のカリキュラムの開発

である。しかし、たくさんのトレーニング、セミナー、ネットワークづくりをしても、ほとんどの場合は、カトマンズ市とその周辺という地理的制限が存在している。また、CERIDのニュースレター、出版物等は、郵送料がないため、広く普及されにくいのが現状である。一番大きな問題は、1年間の予算額である。実に3万5千円しかない(!)。雑誌の購入は全く不可能、書物のほとんどが寄付されている。不定期財政的寄付の援助金に依存されている。そのため、建物だけでなく二部室を除いて、家具、本棚等が極めて老化している。特にCERIDの出版物がおかれている約6㎡の部屋はシックングであった。最低の整理の中で、ほこりをかぶっている出版物が多く、虫に食べられた跡や火事にあった本もあった。その中から、ほしい本をさがさなくてはならない。両手が真っ黒になってしまった。しかし、その書物は無料である。このような貴重な研究を一般販売されるべきと思う。それがセンターの収入につながり、普及されることにもなるが、上記の悪条件を考えると、どれほど需要があるのか予測できない。各出版物の印刷部数が少ないため、96年、97年分がほとんど品切れとなり、再版予定はない。

他にもさまざまな問題が存在しているが、レベルの高い研究やトレーニング等の活動をしているCERIDがさらに発展できるよう提携する大阪産業大学の協力が責務であろう。

ネパールの人口の約40%が最低生活水準以下の暮らしをし、子供の労働、女性に対するさまざまな差別的待遇の悪い条件の中で、教育制度の改善は決して簡単な仕事ではない。

最後に、カトマンズ市を少し紹介すると、世界中第2番目の汚染されている都市でありながらとても魅力的な、多文化・多民族の町である。住民の多くは貧しい生活をおくりながら、人間性と感情を豊かに持っている。ものが溢れている社会で、管理化されている日本の若者たちにぜひ見て、感動してもらいたい。

(3月23日)

(教養部 教授)



トリバン大学のCERID研究センターにて

図書委員が薦めるこの三冊

総合図書館委員(旧)
太田 修

読書の仕方にもいろいろな読み方があるが、消費的な読み方、生産的な読み方という分類もあろう。消費的な読書をするのは実に楽しい。読んでいることが楽しければそれでよい。やめたければいつでもやめればよい。知的刺激にならなくてもよい。気に入ったなら何度でも読むがよい。眠り薬に使うのも効果的だ。乱読するもよし、挿入絵を眺めるのもよい。だらしなく読むことは実に楽しい。ときには、このような視点からの見方があったのかと仰天させられ、思い込んでいた常識が覆ることもある。

田中秀征『民権と官権』

今日の政治は激動している。約40年ぶりに自民党単独政権を終わらせた細川内閣以来、羽田、村山、橋本と4つの連立内閣が登場する政治の激動によって日本の政治と行政の基調は何ら変わらなかったと、氏は自らの官僚経験に基づいていう。政党は与党になったり、野党になったりしたが、政権を支える基盤政党は変わることなく“行政党”と呼ぶべき日本の官僚組織であったという。“行政党”が益々官権政治の巨大なシステムを解明しつつ、官権政治から民権政治への転換に向けて行政主導の行政改革ではなく、政治主導の行政改革が自明の必然であることを説いている。政治の動きに目を向けるのも一興である。

丸山健二『安曇野』

個人的な生活活動に関心を移せば、本書に集成された70～80年代の氏のエッセイは、カラッと乾いていて勢いがあり、大町市付近での氏の孤高な生活振りを語っている。イヌワシがはるか上空をまったく静かに浮かんでいるところを子供のころ一度だ

け見たことのある氏は、私が好きなのは要するにイヌワシの雰囲気だといひ、北アルプスのどこかにきょうもまたたつた一羽で悠々と飛んでいることが感じられるだけで満足なのだという。そして氏はハングライダーに挑んでいる。その他ジョギング、オートバイ、四輪駆動車など、何かをしてやろうという気を起こさせる氏のエッセイのもつ躍動感には驚かされる。

「専門分野で特に関心の高い領域における教科書」

教科書などを読む場合には、学習するという意味があり、生産的読書の一つということになる。今一度教科書を精読することをお薦めする。理解できない箇所には疑問符?を書き入れていこう。ある程度読み進んだ段階で、その箇所に戻ってみよう。理解できるのならそこにヒントとなったメモを書き印そう。このようにして、一冊の本を完璧なまでに読み切ろう。それから、その領域で定評のある著名な専門書を、図書館で探してみよう。必ずや見いだすことができるだろう。そして読み始めよう。前段階を踏んでいるから、以外に容易に読み込めるだろう。今度は関係文献を検索し、調べてみよう。こうして、読み切れるならば、もう諸君は、その領域における一般常識を識る専門家になっている。精密に精読することだ。時間を惜しまないことだ。

(工学部助教)

民権
官権
田中秀征

私が薦めるこの三冊

総合図書館委員(旧)
田間 泰子

環境問題が叫ばれて久しいが、私たちはどのようなかたちで地球と共生をはかるべきか。ここで紹介する本とビデオは、その疑問に直接応えるものではないが、より深く私たちの心を打ち、生き方を考える支えになるだろう。(With thanks to Mr.Saihara)
(1)リチャード・ブロンネク『独りだけのウィルダースーアラスカ・森の生活』東京創元社。

自然に憧れ、自然の中で生活を夢見る人は多いだろう。でも、それを現実にもやってみるとなると…??? でも少しでも自然に惹かれる人は、この書を読んでみよう。これは著者がたった独りでアラスカ山脈中腹のウィルダースー(人の入り込まない森林地帯)に入り込み、すべてのものを手作りしながら過ごした日々の記録で、丸太の切り出しから丸太小屋づくり、四季の変化やさまざまな動物、グリスリーに襲われた様子などを描いている。読みやすいだけでなく、読者の心の中にはムクムクと、自然と人との厳しくもすばらしい関係への憧れが育ち始めるはずである。

(2)土本典昭監督『水俣』青林舎。

(1)の本から一転して、このビデオはほんの数十年前の日本の自然と人との最悪の関係の記録である。日本社会の環境汚染には古い歴史があり、その中でも戦後の三大公害の一つとして有名なのが、この「水俣病」。その原因は水銀だといわれている。水銀は江戸時代までは妊娠中絶薬として使われていて、明治になって政府が取り締まったという歴史を持つ。それが企業によって海に流され、魚を汚染した。その魚を食べたのは猫

と人間。最初に猫が狂死し、やがて人間も…。この映像は、「水俣病」をめぐる人々の苦しみ、差別、闘い、そしてそれら衝き抜ける人間の生をとらえた傑作であり、映像ならではの衝撃を与えてくれる。二度と繰り返してはならないこの「実験」の記録は、今でも我々への警鐘である。(本学図書館で閲覧可)

(3)スティーヴン・ジェイ・グールド『ワンダフル・ライフ』、『ダーウィン以来』、『にわたりの歯』(上・下)、『パンダの親指』(上・下)、『フラミンゴの微笑み』(全て早川書房)。

天井にとまっているハエや蜘蛛は、どうして落下しないでいられるのか?母親の体内で姉妹と交尾して、母体の外に出る前に死んでしまうオスのダニの運命とは??著者のクルードは、古生物学と進化生物学の研究者であるだけでなく、優れた科学史家でもある。彼が紹介してくれるのは、私たち人間とは一味も二味も違った生活を送る様々な生き物や恐竜の姿や科学の歴史だが、その背後に「科学」とは何か、人間はこの地球の生物のひとつとしてどうあるべきかについての一貫した思想がある。旺盛な知的好奇心を充たし、傲慢な人類から地球と共生する人類へと脱皮するための、必読書。これらの本のどの章から拾い読みしても、面白い。

(短期大学部助教)

ワンダフル
ライフ

最近入った図書の一部紹介

書名	著者名	請求記号
The New York Times フロントページ:1896-1996	北村孝一訳	075.3/1
燃え続けた20世紀:現代史を創った人と事件	エイブラム・サッチャー著 大谷聖志郎訳	209.7/5/1-3
ひろがるボランティア活動:第1回・第2回全国ボランティア活動推進連絡協議会の概要	文部省〔編〕	369.7/7
大学を語る:22人の学長	天野郁夫編	377.2/1/15
官公庁事典	産業調査会事典出版センター	317.2/6
経済・経営分析のためのEXCEL入門	田中克明著	417/52
工業材料大辞典	工業調査会	501.4/16
国産・輸入車197車種の乗用車通称名別・点検結果:平成8年調査	JAF出版社	537.92/24
コニカにおける環境マネジメントシステムの実際	コニカ(株) 環境安全推進室編	519.13/27
時刻表昭和史 増補版	宮脇俊三著	686.2/1/19
新学問のすすめ:21世紀をどう生きるか	西沢潤一著	914.6/17
自由意志について:全体論的な観点から	モートン・ホワイト著 橋本昌夫訳	151.2/2
ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅	ラウル・ヒルバーグ著 望田幸雄(ほか)訳	316.88/5/1-2
NGO最前線:市民の海外協力20年	シャプランドール=市民による海外協力の会著	329.36/2
我国会計学の展開	染谷恭次郎編	336.9/140/1-3
欧州通貨統合の経済分析	島野卓爾著	338.97/11
世界の大学:ハーバート	シャロン・ゾウ編	377.23/7
日本建築史圖録	天沼俊一著	521/6/1-6
土の環境圏	岩田進午(ほか)編	613.5/2
生産システム便覧	精密工学会編	509.6/73
改造自動車等取扱いの解説	改造自動車取扱い検討委員会編	686.1/5
少年犯罪と少年法	後藤弘子編	327.8/1
宇宙観光がビジネスになる日	G・ハリー・スタイン著 飛永三器訳	538.9/4
鉄道員(ぼっぼや)	浅田次郎著	913.6/119

総合図書館ホームページ開設!!

4月から総合図書館では、ホームページを開設しました。利用者へのサービス向上と理解を深めるため、利用についての案内をインターネットにより提供しています。また学外よりアクセスができ、多くの人に利用していただけます。

総合図書館のwwwサーバアクセス先は、

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/campus/library/>

■ホームページの内容

1) 利用内容

休館日 開館時間 利用資格 利用方法

2) 施設の利用方法

図書館資料の種類と利用方法

3) 資料の検索

館内設置されているパソコンによりOPAC(所蔵目録情報検索)を介しての利用方法

4) レファレンスサービス

レファレンス利用について

5) お知らせ

質問・要望がありましたらご連絡ください。



図書館の使い方シリーズ(1) 図書館資料の利用

総合図書館 鴉 論

1.はじめに

大学生活を送るにあたって勉学はもとより、一般社会生活を送るうえにおいて、種々の情報が必要となります。

一般的に言って日本人は、情報は無料。必要時には誰かに頼めば何とかなる、と考え自分で積極的に調べようとしない。必要情報は、自分が現在入手している新聞・雑誌・図書等に目を通しておけば良いとの古い考えの人も居るのが現状です。

申すまでもなく、情報の根源は、知識であり、例えばAさんが持っている知識をそのままAさんが持っている場合は知識そのものですが、この知識が文字、映像などの媒体を通じてBさんに移動したとき、その知識は情報となります。

学生の勉学、一般社会人の経営計画、研究計画など種々の業務遂行のための情報は、必ず必要となります。この情報をどのように探し、どのように活用していくかは、皆さんが大学に居るうちに学び取り、情報の有効活用を図りましょう。その実験台として、大学図書館は最適と考えますので、順次図書館の使い方について説明していきます。

2.図書館利用の形態

図書館の資料を利用する場合、館内で資料を利用するのと、必要資料を借出し、館外で利用するのと大きく分けて二つあります。これらの方法について説明します。

(1) 館内閲覧

図書館の中で資料を各自で取り出し、閲覧する開架法と、必要資料をコンピューター(OPAC)、目録(カード形式・冊子体)により検索し、図書館員に取り出してもらい閉架方式がありますが、当館は、原則として開架方式を取っております。

したがって閲覧の際、特別な手続きが必要な貴重図書ならびに視聴覚資料を除き自由に閲覧できます。

視聴覚資料は、著作権との関連で、一般図書とは異なり、利用の申し出があるごとに利用するソフト

●ビデオ ●LD ●CD ●レコード

●カセットテープ ●16mmフィルム

のうち目的とするソフトとヘッドホンを貸出し、図書館内AVコーナーで利用してもらっています。

利用時間は

ビデオ・LD 2時間 CD、レコードなどその他の資料 1時間となっています。

では図書館内で、利用できるのはどのような資料があるのか。それを列記すると次のようになります。

●一般図書 ●雑誌 ●索引・抄録誌 ●視聴覚資料

●CD-ROM

朝日新聞 日本経済新聞 日経流通新聞

日経金融新聞 日経産業新聞 雑誌記事索引

国立国会図書館所蔵目録(明治期)

同上

(J-BSC)

JISCT資料所蔵目録

季刊書誌ナビ(雑誌・図書の発行を知るもの)

科学技術文献速報

管理システム技術編 物理・応用物理編

環境・公害編 土木建築編

金属工学・鉱山工学・地球の科学編

機械工学編 化学・化学工業編

電気工学編 エネルギー編

ILL(学術情報センター相互利用システム)

NACSIS-CAT(学術情報センター目録システム)

などがあります。

上記の資料の中でJ-BSCS、ILL、NACSIS-CATは、業務用として使用しているもので、他大学等での所蔵状況、図書の発行状況などを調べる必要がある時は、レファレンスカウンターで検索を依頼し、代行検索をしてもらう必要があります。

CD-ROM検索用コンピュータは一台であるため多くの利用者が同時に来られた場合は順番待ちとなりますが、図書館員が検索方法、検索後の原著論文の入手等については指導いたします。

(2) 館外利用

一般に云う貸出利用で、利用者の皆さんが、図書館より資料を借り受け利用するものです。

図書館資料の中には貸出できない資料、すなわち

●禁帯出図書(便覧、ハンドブック、年鑑、辞典、事典、JIS本規格表、レファレンスツールなど)

●雑誌 ●視聴覚資料 ●貴重書

などを除き一般図書は、貸出します。貸出の冊数および期間は次のとおりです。

種 別	平常貸出		休暇中貸出	
	冊 数	期 間	冊 数	期 間
学 生	5	2週間	7	当該休暇中
大学院生 非常勤講師	30	5カ月	平常貸出と同じ	
本学職員	90	1カ年	平常貸出と同じ	

なお学生の貸出しは、1回に限り継続貸出しができますので、必要な場合には返却日までに本を持参し手続きを行ってください。

返却日が過ぎても返却しない場合は、1日返却が遅れるごとに2日の返却停止になりますので返却日までに図書は返却しましょう。

3.おわりに

図書館資料を上手に利用するためには、利用する図書館のシステムを十分理解し、慣れることが大切です。これらのシステム、資料の検索等の指導をするためには、レファレンスライブラリアンがいるので、判らないことが有ればレファレンスライブラリアンに聞くことが図書館利用の第1歩です。

今回はレファレンスサービスについて記載する予定です。

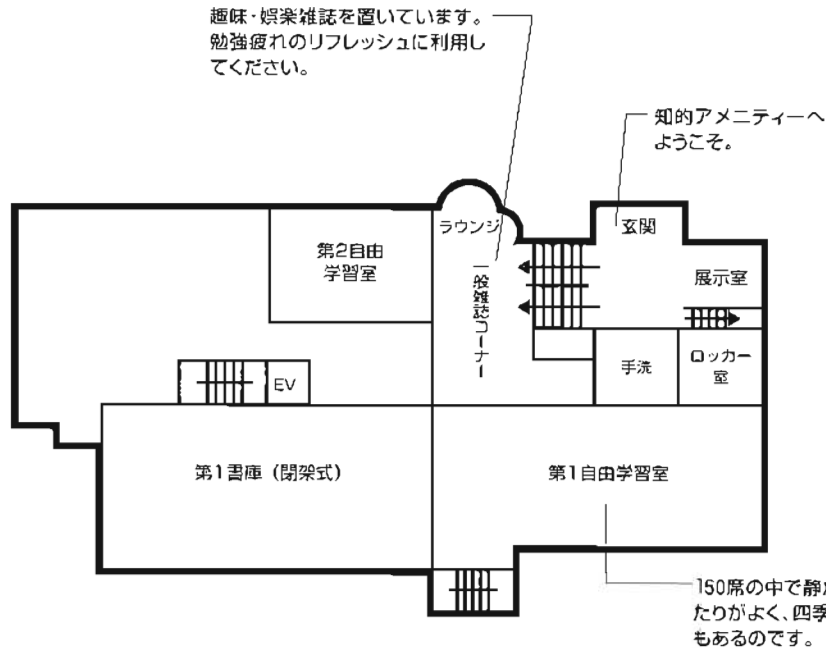
(つづく)

新入生のための 図書館ガイドマップ

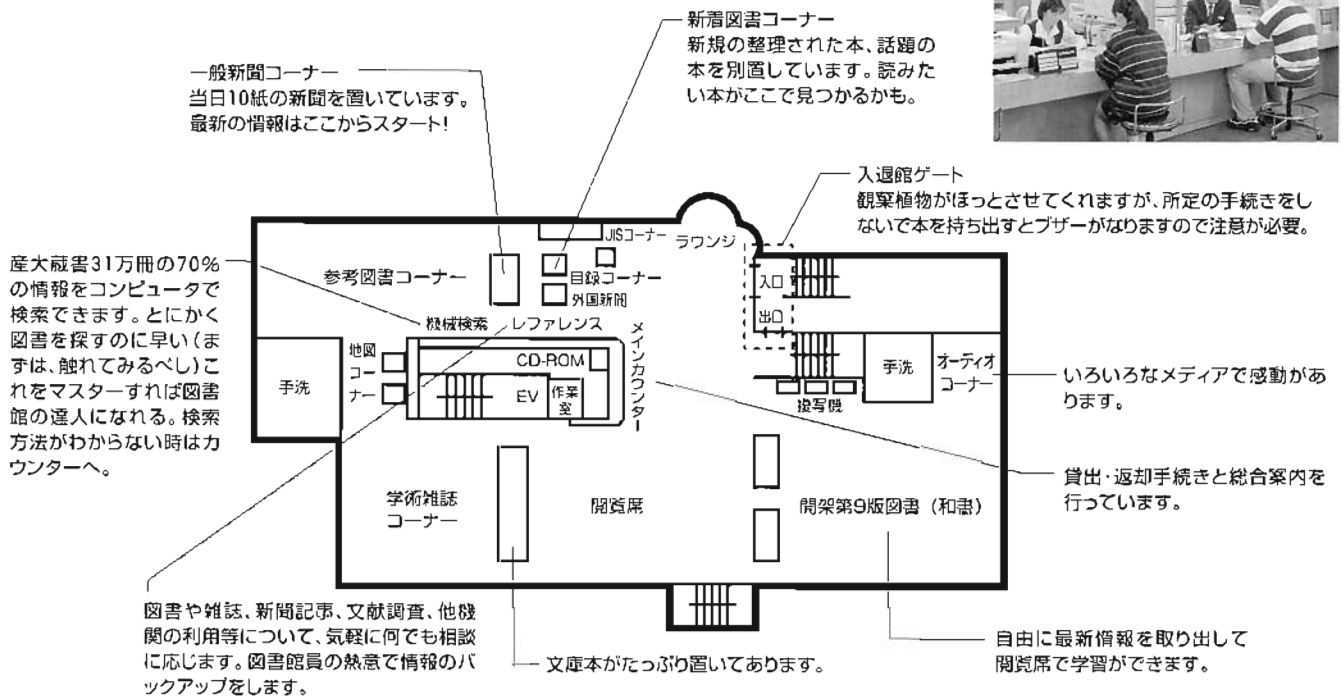
図書館のっておき見つけよう!

図書館は、情報の宝でいっぱいです。図書館は様々なサービスを提供しています。館内は……各スペースの特長を知っていただき多くの皆さんの図書館ライフに活用してください。わからない事があれば、気軽に図書館員に声をかけてください。

1F



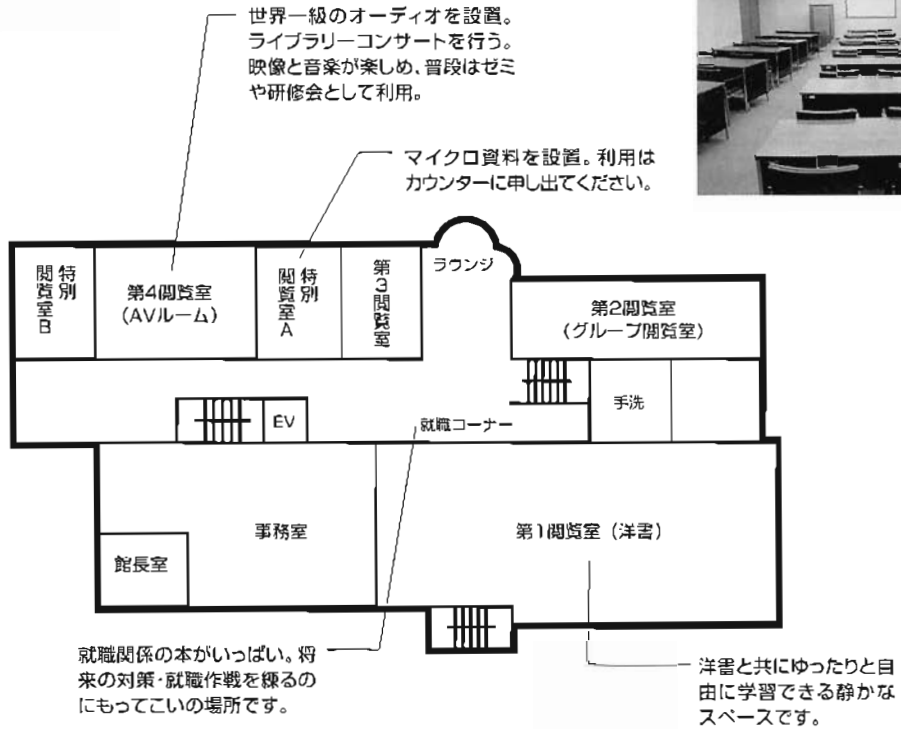
2F



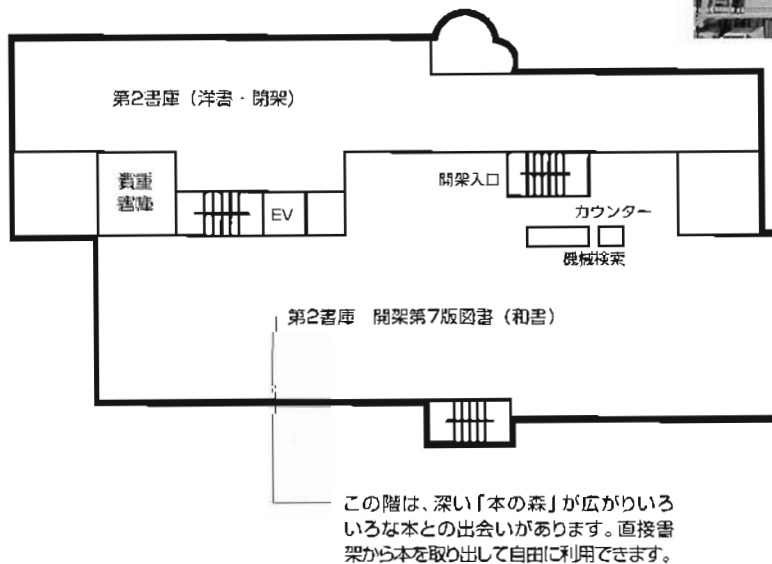
次回館報は、11月中旬を予定しています。

よりよい図書館づくりのため、ご意見、ご要望、お気づきの点がありましたらご連絡ください。

3F



4F



総合図書館インフォメーション

1.開館時間 ●図書館は通常9時～20時30分、土曜日は9時～19時20分の間開館しています。(但し、貸出、返却、レファレンスは通常9時30～20時、土曜日は9時30分～19時)

●都合により変更することがあります。

2.休館日 ●日曜日・国民の祝日、本学創立記念日(11月1日)

●館内整理日(毎月25日、当日が休日の場合は翌日)

●臨時の休館日は、その都度掲示します。

3.貸出冊数と期間

種別	冊数	期間
学生	5	2週間
大学院学生 非常勤講師	30	5カ月
本学職員	90	1カ年

<注意>借りた本は、期日までに返却してください。次に借りたい人のためにも迷惑が掛かりますので注意してください。返却期間を過ぎた場合、延滞日数の倍日数だけ貸出を停止します。

後援会寄贈について (クラシックCD、100万円の寄贈)

本学後援会から総合図書館に対して、例年学生用資料を寄贈していただいておりますが、昨年度は視聴覚資料として右記クラシックのCDを寄贈していただきました。

ここに感謝の意を表したいと思います。

クラシックCD1228枚 100万円
体系的に幅広いクラシックの作曲家、曲目が網羅されています。



購入希望図書・視聴覚(ビデオ・CD)資料について

探している本(図書)がないとき、または購入してほしい本(図書)、視聴覚資料があれば2階カウンター横にある「総合図書館申込書」に必要事項を記入してください。

図書館において必要図書と認められた場合手続きを行い、届き次第2階掲示板に告知します。大いにご利用ください。

ライブラリー・コンサート

図書館では、蓄積されたCD・LD・レコードの有効利用と利用者サービスの一環として、月2回のペースでコンサートを行っています。世界一級のオーディオでホールへの響き、醍醐味を体感してください。

仕事や勉強の合間、疲れた脳をリフレッシュ、クールダウンするにはクラシックはもってこいです。右脳の想像力を活性化させるのにもおすすめです。

- 場所:総合図書館 3階AVルーム
- 日時:第1、第3木曜日12:30～14:00
- 曲目の日程は、総合図書館玄関に置いてあります。



編集後記

21世紀まであと1000日を切った。宇宙の誕生ビッグバンが150億年前、太陽系ができて47億年、地球ができて45億年。

以前、NHKテレビ“生命40億年はかな旅”を見てドキッとした。人間の誕生は、バクテリア(原始的な単細胞微生物)からはじまったと……。バクテリアですよ、バクテリア!

人間は遠い昔みんなバクテリア!!それから環境に対し適合・進化をくりかえし、現在の人間を形成した。人間は、所詮偶然の産物。

苦しい事、辛い事、忍耐の連続、あるいは無駄なる迎合。将来これら全てを乗り越えて“人間は考える葦である”などのたまう。しかし所詮はバクテリアなのだ、少し立ち止まって道端の名もない草花に目を止める時、何と心のやすらぎを覚える事ができるか。皆さんもっと力を抜いて、日々を楽しんでみませんか?

ご多忙の中、今号の編集にご協力くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。(H・S)

図書館だより No.2

発行日平成10年5月15日

編集発行 大阪産業大学総合図書館
大阪府大東市中垣内3丁目1-1
Tel.0720 (75) 3001 (代)



再生紙を使用しています。